



←坂川沿いの四季の道。よく手入れをされた花壇。でも裏にまわれば……。

→梅雨の晴れ間をねらって人が出た。舟がにぎわう。



今週はたっぷり梅雨らしい天気が続き、最後の一日だけ夏日になった。そんな晴れまの日曜日、ぶらりと坂川に沿ってある四季の道を走った。遊歩道にそつてもうけられた花壇には四季折々の花が植えられている。それぞれに思いをこめてつくられた花壇は、歩く人たちの目を楽しませてくれる。ところが、この花壇も遊歩道に面した側だけで、裏にまわると花壇ではなく菜園になっているのだ。松戸市のホームページを見ると四季の道は次のようになっていいる。『坂川沿いに整備された、花と緑の遊歩道です。住民の皆さんがボランティアで花を育てています。江戸川にゆかりのある小説「野菊の墓」の文学碑から江戸川の矢切の渡しを結ぶ「野菊の小道」の一部にもなっています。』つまり、どこにも菜園として貸しだしたとは説明されていないのだ。花壇として借りた人たちも、ここで野菜をつくるのは契約違反だと知っているに違いない。だから、おもてには野菜をつくらないで花壇の裏の空き地を利用

今週のクマ

→鼻の頭を泥だらけにしたクマ。今日もモグラ堀を楽しんだようだ。



→手前の緑はカボチャだろうか、奥にトマトが見える。その向こうが花壇、遊歩道。表から見ると花壇に見える。(写真下)



して遊歩道を歩く人たちには気づかれな
いように配慮しているのだ。

しかし、これから育ってくる野菜は実
ものが多いので、いやでも目にはいる。
エンドウもそうだし、ナスやトマトなど
は花よりも目立っている。

農地を借りて野菜をつくっている畑は
たいていの人が歩きがけに実を採られな
いようにネットを張っているが、さすが
に花壇として借りた土地に囲いをつくる
わけにもいかず、こまめに見回るしかな
いのだろう。

かつつて花盗人がいたが、散歩しなが
ら気にいった花があると、ひよいと手を
伸ばして手折ると、なにくわぬ顔をして
歩いていった。野菜でも、たとえばキャベ
ツが高かったことがあったが、そのとき
など堂々と畑から盗んでいく女のひとを
よく見かけたものだ。

ところで花壇の裏で野菜をつくる人の
神経はどういうものなのだろうか？ あ
る人にいわせると、

「きつと田舎の出身者だろう。リタイア
して花壇を借りたのでついでに野菜をつ
くりたくなっただらうよ、きつと」

人は最期は郷愁で生きるのだろうか？